

◎景気ウォッチャー調査[2018年9月]

2018年9月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を2.7ポイント上回る46.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「前月に比べて30%程度単価が向上している。」(家電量販店)、「平成30年7月豪雨災害の影響が長引いている。」(その他専門店)等の理由から、「良くなっている」「やや良くなっている」「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を4.3ポイント上回る45.5となった。

企業動向関連は、「変わらない」の回答の割合が減少し、「eコマース関連の荷物は相変わらず好調に発送されているが、会社関係、量販店関係は落ち込みがあり、個人からの発送も前年割れの状況が続いている。ただ、地元プロ野球チームリーグが優勝した後の優勝セールによる荷物の動きは活発になっている。」(輸送業)等の理由から、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.2ポイント下回る49.3となった。

雇用関連は、「変わらない」の回答の割合が減少し、「新卒採用がほぼ終了し、第2新卒を含む若年層の中途採用、30代までの即戦力の技術職採用が活発化している。そのため中途就職サイト、転職合同説明会、人材紹介、ハローワークなどを利用して採用活動を展開している。即戦力の技術職は人材紹介の比率が年々高くなっている様子が見える。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る50.0となった。

	9月	8月	前月差
合計	46.7	44.0	2.7
家計動向関連	45.5	41.2	4.3
企業動向関連	49.3	51.5	-2.2
雇用関連(参考値)	50.0	48.5	1.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を2.5ポイント上回る52.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「変わらない」「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「来客数が増加してきており、特にサービス入庫客が増加している状況が、これから年末を迎えるに当たっての良い傾向である。」(乗用車販売)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.8ポイント上回る52.6となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少したものの、「やや良くなる」の回答の割合も同じくらい減少し、「工作機械業界の得意先の受注量は、直近の四半期は前の四半期よりも減少しており、ピークは過ぎたものの受注残は5か月分を抱えているため、当社への発注も継続して見込める状況である。しかし、他の工作機械メーカーは受注が減少しているとの話もあり、同業界でも差が出始めているようである。」(金属製品製造)等の理由から、「悪くなる」「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント下回る50.7となった。

雇用関連は、「変わらない」「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「引き続き有効求人倍率は好調を維持しており、景気は今後も良くなる見込みである。」(職業安定所)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.8ポイント上回る55.9となった。

	9月	8月	前月差
合計	52.5	50.0	2.5
家計動向関連	52.6	49.8	2.8
企業動向関連	50.7	52.2	-1.5
雇用関連(参考値)	55.9	47.1	8.8